

「2024年度香港中文大学サマースクール派遣参加報告書」

京都大学法学部1年 唐 小雪

① 学習成果

私が今回の留学プログラムを通じて最も顕著に変わったと感じるのは、言語学習に対する意欲の向上です。出発前は、言語学習に対する強い情熱を持っていたわけではありませんでしたが、滞在期間中に、中国語を駆使して他の参加者が病院に行く手助けをしている様子や、日本以外の国からの参加者と英語だけでなく中国語を使って楽しそうにコミュニケーションをとっている姿を目にし、自らも中国語を用いて人と対等に会話をする能力を身につけたいという欲求が一層強まりました。加えて、香港の学生たちが流暢に英語を話す様子や、他の参加者が英語で交流しているのを見て、意外にも英語学習への意欲が高まったことも、私にとっては大きな成果となっています。国際理解の観点からは、標準語を学びながらも中国本土とは異なる文化的背景を持ち、西洋的な要素も色濃く反映された香港での学びが、新たな国際的視点を養う貴重な機会となりました。プログラムを通じて自分の中国語能力が確実に向上した実感を得たことから、再度中国留学に参加したいという気持ちが一層強くなりました。日本での第二外国語としての学習や自己学習を通じて中国語力を着実に伸ばし、次回の短期留学プログラムにも再び参加したいと考えています。

② 海外での経験

香港で驚いたことの一つは、日本の飲食店や日本の商品が予想以上に多く流通していることです。現地の学生によれば、スシローなどの回転寿司店が地元の人々に頻繁に利用されているほど人気であることが分かりました。また、香港には、日本人の創設した香港にしかないおにぎりチェーンが私の利用したほぼ全ての駅に存在しており、驚くべきことにこれらの店舗は現地の人々に広く利用されていることが分かりました。このような現象は、国同士の文化的な垣根が次第に薄れてきていることを実感させるものでした。

③ プログラム内容

プログラムの内容については、午前中に文法の授業が3時間、午後にスピーキングとリスニングの授業が3時間と、時間的にはかなり長いと感じました。しかし、私のクラスの講師は大学時代に中国語教育を専攻していたため、その専門性が授業の体系的な構成に如実に表れていました。その結果、3時間の授業も始まってしまうと時間があっという間に過ぎ、効率的に中国語を学ぶことができた実感しています。

④ 進路への影響について

今回のプログラムを通して外国語を使って今までは出会うことのなかった人々と交流することの喜びを実感したため、今までは外国色の強い企業で働くことに消極的でしたが、以前よりもそうした企業での就職を強く考えるようになりました。